

[平成21年度実証された技術]

[技術名] 和子牛における改良型ゴムリング去勢法

[要約] 和子牛の去勢時にゴムリングの装着位置を改善することより、治癒するまで事故がなく精巣部分を壊死させることができ、子牛の発育も優れる。

[キーワード] 和子牛、無血去勢法、ゴムリング法、バルザック法、固定輪留め

[担当] 坂井農林総合事務所 農業経営支援部 経営支援グループ

[連絡先] 電話 0776-82-2800 電子メール n-kawamori-xl@pref.fukui.lg.jp

---

[背景・ねらい]

肉用牛繁殖経営では、和子牛の無血去勢法として精管を挫滅するバルザック法が行われているが、処置後のストレスや体調不良から乾物摂取量の減少や発育停滞が散見される。一方、ゴムリング去勢法は所要時間が短く処置も容易であるため、農家自身ができる簡便な方法である。しかし、装着位置によっては精巣部分が自然脱落するまでの間(約6週間)に細菌感染による事故も懸念される。そこで、ゴムリング去勢法についてより安全に行う方法について検討する。

[技術の内容・特徴]

1. 去勢用器具としてイージーカット・DC (デンカ製薬) を使用し、ゴムリングはゴムリング・D (デンカ製薬) を子牛1頭に対して2個用いる。
2. 一般法でのゴムリング装着では壊死(硬化)した部分が退行を起こし、牛体側に突き刺さり化膿(図1)を引き起こした。
3. 精巣上端部に固定輪留め(チューブ等)を利用することで、精巣の位置固定ができ、確実に精巣上端部でのゴムリング装着が可能(図2)になった(一般法に比べ下方に装着)。また、壊死部分を最小限に抑えることができ、精巣部分の退行や化膿はみられない。
4. ゴムリング装着後精巣部分が自然脱落するのに要する日数は、33~47日(和子牛20頭)である。
5. リング去勢後の飼料摂取量低下はみられない(図3)。
6. ゴムリング去勢法のDGは1.02で、バルザック法のDG0.96よりも発育が優れる(図4)。

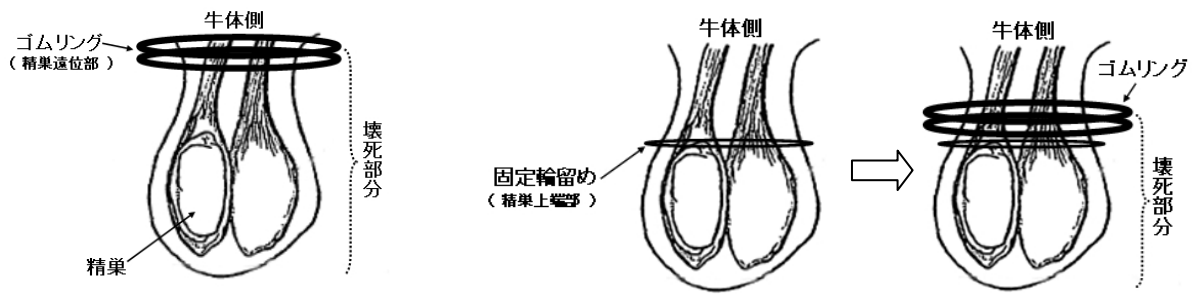
[技術の活用面・留意点]

1. リング装着位置を下方にすることで精巣部分を壊死させ、簡易に去勢ができる。
2. 子牛の体調不良や発熱、下痢時には去勢処置を行わない。
3. ゴムリング去勢法の生後適期月齢は2.5~3.5ヶ月齢と短いため、適期を逃さないようにする。

[具体的データ]



図1.リング装着不良による化膿（一般法）



リング位置不良（一般法）

リング位置適正（改良法）

図2 ゴムリングの装着位置の改善

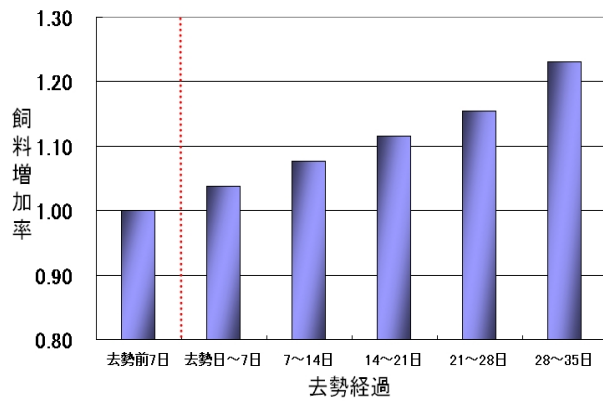


図3 飼料摂取量の増加率

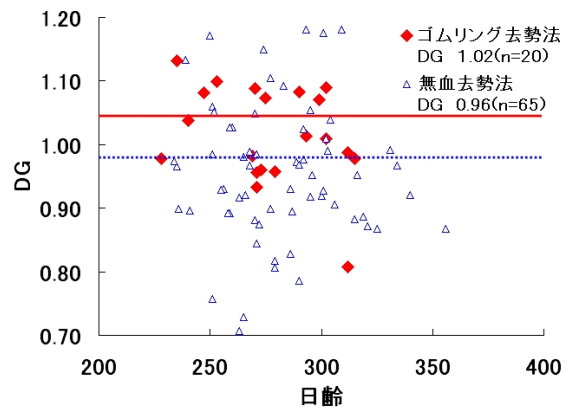


図4 発育比較